

東桜学館互見授業シート

<<実施日>>令和7年〇月〇日(〇)〇時間目

<<内 容>>高校英語 CLIL English I 2年〇組 教諭 〇〇〇〇

<<研究主題>> より効果的に探究的な学びを深める授業をめざして

(重点項目) ①対話による学びを深める授業 ②協働的な学びと振り返りの場の設定

◎授業者は、どの活動のどの段階を狙いにするか、下の表に丸をしてください(複数記載可)

◎実技科目も下表「学びの活動」欄のどれかに丸をしてください

◎下の表を参考にしつつ、作り変えて用いても構いません

◎加えて、授業者は、丸をした段階について、さらに具体的にどういった生徒の姿・発言・状態を狙いとするか、自由記述欄に書き込んでください

◎授業者によって書き込み済みの互見授業シートを参観者に配布して、具体的な狙いを共有しつつ、授業研究を行ってください

学びの活動	1 単純な活動をする	2 要点を取り出す(端的に表現する、確認する) 条件を満たす	3 比較検討する 表にする、まとめる 説明する(説得する)	4 変容に気づく 視点を変える 応用する
資料(図、表、グラフ、文章)との関係	・資料を使わない ・教員によってかみ砕かれた素材によって学ぶ	・資料を読み取る	・資料を作る ・複数の資料をまとめる	・学んだことを応用する
狙いとする生徒の具体的姿	・【全員】 役(今回は生物学者 or 牛) になりきりながら論理的に意見を言える(用意した文章を覚えて話す) ・【上位層】 対戦相手の意見をふまえて自分たちの意見を再構築して言える			
文章を書く	・自由に感想文を書く	・課された条件を満たしながら文を書く ・資料の要約や現象の説明をする文を書く	・主張や要点を表にまとめ、分析・説明する文を書く	・まとめを受けて、さらに発展させた文を書く
狙いとする生徒の具体的姿	(この後の授業では、今回話したことを意見文として書かせる授業を予定しています。)			
話し合う	・感想・意見を披露し合う ・問題のより良い解法について話し合う	・相手の自分の感想・意見の共通点と相違点を確認する ・複数の解法の違い(長短)を確認する	・共通点と相違点を表にまとめ、説明する(さらに話し合う) ・より良い解法を選び、その理由を説明する	・まとめを受けて、さらに発展させた意見を持つ ・まとめを受けて、発展的な問題を解決する
狙いとする生徒の具体的姿	・【全員】 相手の意見を英語で聞き取り、それに対する反論を考えて伝えることができる ・【上位層】 対戦相手の反論をふまえてそのフォローをしながら、自分の主張を再構築できる			
読む	・ただ読む ・登場人物の行動や発言の真意を考える	・表現の含意について考える ・段落分けの意味(文章の全体の構成)を考える	・全体の流れを構図図にまとめて理解する	・まとめを受けて、当初の読解からの変化を説明する
	・どの主張に賛成か、立場を決める	・主張ごとの特徴を確認する	・複数の主張について、表にまとめる	・まとめを受けて、当初の立場からの変化を説明する
	・法令、契約、定義を参照する	・法令や契約、定義について、例を挙げながら考える	・複数の法令や契約、定義について比較検討する、表にまとめる	・まとめを受けて、法令、契約、定義について改善点を説明できる
狙いとする生徒の具体的姿				
問題を解く	・ただ解く	・条件を満たして解く	・出題意図について考える	・作問する ・採点する
狙いとする生徒の具体的姿				

高等学校外国語科（英語）学習指導案

山形県立東桜学館高等学校

教 諭 ○○○○

- 1 日 時 令和7年○月○日（○）第○校時
- 2 学 級 2年○組（文系、男子○名、女子○名、計○名）
- 3 教 材 教科書 ENRICH LEARNING II（東京書籍）

Unit 3 How Do We Choose What We Eat から応用，自作教材

4 単元について

（1）単 元 観

コミュニケーション英語ⅡのUnit3の中で、牛などの家畜が地球温暖化を招く大きな要因となっていることから、菜食主義になるべきという社説と、それに対する意見として、完全に菜食主義になるのではなく、肉を食べる頻度を減らすべきという論が展開される。その内容をふまえて、関連の英文を生成AIとやり取りを重ねて完全オリジナルで自作した。本科目では、生物学者、経済学者、家畜である牛という3つの立場で“Should we stop or reduce eating meat to fight against climate change?”という議題について、ロールプレイ型のディベートという形で議論する。3つの役割ごとの主張を考慮し、通常のディベートのように二項対立にはせず、stop or reduce という幅を持たせた議題にしてある。

（2）生 徒 観

クラス内の学力差が激しく、難関大学を目指す層、地方国立大学を目指す層、私立大学を目指す層、そして進学意識が希薄・または学力的に大学進学が難しい層が、それぞれ4分の1ずつ存在する状況である。このCLIL English という科目以外の他の英語の授業は習熟度別で授業を行っている。本科目では、英語を使用することに重点を置いていることから、英語が得意な生徒と苦手な生徒を意図的に同じグループにして、互いに学びあえるように工夫している。英語が苦手な生徒の中にも、人前で話すことを得意とする生徒は多数おり、上位層だけでなく、そのような生徒たちの活躍にも期待している。

（3）指 導 観

本単元では、英語5技能のうち、特に、話すこと（発表）、話すこと（やりとり）、書くことの3つのアウトプットの重きを置いている。また、1グループ3人の中で、事前に立場を決めて、準備したものを順番に話すこと（①立論、②反論）と、やり取りの中で出た相手の意見を、自分たちの考えに加えて、要約して即興で話すこと（③要約）という役割を、時間を区切って行うという点で、「ディベート形式」を採用している。このように役割を分担することで、グループの中で様々な学力の生徒がいても、それぞれ活躍できるよう工夫している。ディベートのメリット（ターンテイキングで自分の話す番が必ず回ってくること、必然的にやり取りが発生すること、準備したことを話す生徒と即興で話す生徒の役割分担をできること、具体的な根拠を述べながら論理的に話すことなど）を生かしながら、デメリットを補完する活動として、ロールプレイ型を採用している。これまでの本校でのディベート実践の中で、攻撃的なやり取りや、勝敗の責任をグループ内で英語が苦手な生徒が感じてしまうことなどが原因で、英語ディベートや、英語自体にも苦手意識を持つ生徒が出てしまうことがあった。そのような課題を解決するために、ディベートの型を残しながら、ロールプレイ型にすることで、自分ではなく「ある立場の意見」としてその役になりきって議論することを提案する。これは本校としても初の試みであり、これによって期待する効果が得られるかどうかは今後よく検証する必要がある。

5 単元の目標及び評価規準

（1）目 標

- ・伝えたい情報や考えを、教科書で学習したことや、自分が知っている単語や表現を使って正しく、話したり、書いたりすることができる。＜実践的な英語運用能力＞

- ・3つの異なる立場の主張を理解し、それぞれの立場に立って、論理的に意見を述べるができる。＜論理的思考力＞
- ・英語の教科書で習った食と環境に関するテーマが、生物や公共など、他の教科科目で習っていることとリンクしていることに気が付き、それらの科目で学習したことを生かしながら意見の根拠を考えることができる。＜教科横断的な思考力＞

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
＜知識＞食や環境問題に関連する単語と、意見を述べるための基本的な表現を理解している。 ＜技能＞ディベート形式で立論、反論、まとめができる。	・単元で扱われている表現を活用して、自分の意見を話したり、書いたりすることができる。 ・役になりきって、その立場で論理的に意見を述べている。	・グループでの自分の役割（立論、反論、まとめ）を果たしている。 ・相手の意見をよく聞き、効果的に反論しようとしている。

6. 指導計画 ※全9時間

単元の段階	学 習 活 動	配当時間	単元の 評価規準
導 入	1. コミュニケーション英語Ⅱで学習した内容の復習 2. AREA構造の理解と読み取り	1 時 間	＜知技＞ ＜態度＞
展 開	1. 視点の導入①Biologist ＜教科横断：生物基礎＞ ・生物基礎で学習した「温室効果（greenhouse effect）」とその原因について英語で確認する。 ・3人の生物学者の意見を読み、班ごとに最も効果的だと思う根拠や情報を選んで立論する。 2. 視点の導入②Economist ＜教科横断：公共＞ ・公共で学習した「炭素税（carbon tax）」について英語で確認する。 ・3人の経済学者と行政職員の意見を読み、班ごとに最も効果的だと思う根拠や情報を選んで立論する。 3. 視点の導入③ Cow ・3頭の牛の意見を読み、班ごとに最も効果的だと思う根拠や情報を選んで立論する。 ○人間以外の視点を入れることで、視野を広げることと、より役になりきる要素を強める。	4 時 間	＜知技＞ ＜思判表＞ ＜態度＞
発展①	1. 反論（Counter Argument）作成 ・指定された立場について反論を考える。 2. ディベート形式練習 _____ここまで1時間×2回	2 時 間 ★本時 (2時間目)	＜知技＞ ＜思判表＞ ＜態度＞
発展② 振り返り	1. パフォーマンステスト①＜ディベート＞ ・指定された立場に立ってディベートで対戦する。 2. パフォーマンステスト②＜ライティング＞ ・任意の立場に立って、AREA(+Counter)の構造で意見文を書く。 3. ライティングのフィードバック・リライト	2時間	＜知技＞ ＜思判表＞ ＜態度＞

8 本時の展開

○本時の目標

〔中堅研究テーマ 『生徒が主体的に取り組む言語活動』〕

〔東桜学館研究テーマ 『より効果的に探究的な学びを深める授業をめざして』〕

重点項目①対話による学びを深める授業 ②協働的な学びと振り返りの場の設定

以上の研究テーマをふまえて以下の目標を設定する。なお、生徒の実態を考慮し、目標は二段階で設定する。

- ・【全員】指定された立場になりきって、具体的な根拠を示しながら意見を伝えることができる。
- ・【全員】特定の立場の意見に対して、具体的な根拠を示しながら反論することができる。
- ・【上位層の生徒】やり取りの中で生じた相手の意見や反論をふまえて、自分たちの意見を再構築し、相手に論理的に伝えることができる。

時間	●発問(major questions) ○指示(major remarks) ・想定する生徒の反応(expected reaction)	生徒の学習活動(・) 指導上の留意点(★)	評価規準(△) 【評価方法】
7 min	Look back activity: “Last Time, This Time Reflection” ○Write one or two things you did well last time. ・・ I did well in... ○Write one thing you want to improve this time. ・・ This time, I want to improve... ●What can you do today to improve that? ・・ My strategy is to... ○Tell your partner!	・ 前回の練習からよかったことと課題を一人一人整理し、英語で相手に伝える。 ★「どのように？」を考えさせることで、この1時間で具体的にすべきことを認識させる。	△英語で自分の反省を書いたり、話したりできているか 【観察】 ＜知技＞＜態度＞
7 min	Group reflection: ○Get together with your group member and revise your constructive speech based on reflection.	・ グループに戻って個々の反省をグループで共有し、グループとしてやるべきことを明らかにする。	△グループで考えを深められているか 【観察】 ＜思判表＞＜態度＞
15 min	Quick recap of the counterargument format and build your own: ・ “Some may argue that..., but...” ・ “I understand your point, however...” ○Write your own counterargument.	・ 前回学習した反論の型を復習しながら、今回の相手に対する反論をグループで考える。	△論理的に反論を考えられているか 【観察・プリント】 ＜思判表＞＜態度＞
20 min	<Main Activity> Mini Debate Practice (Biologist vs. Cow) Topic: <u>Should we stop or reduce eating meat to fight against climate change?</u>	・ 3対3のディベート。 ★時間管理をしながら、生徒の様子を観察する。	△自分の意見を論理的に伝えたり、意見を再構築したりできているか【観察・プリント】 ＜知技＞＜思判表＞＜態度＞
5 min	Reflection & Sharing ●What was the most persuasive idea today and why? ●What should you do to improve your performance next time?	・ 次の授業で行われるディベート本番に向けて、他チームの良かったところ、自分たちの改善すべきところを振り返る。	△1時間を振り返って、次につながる学びを得ているか 【観察・プリント】 ＜思判表＞＜態度＞

東桜学館互見授業シート

＜実施日＞令和7年〇月〇日(〇)〇時間目

＜内 容＞高校英語コミュニケーションⅡ 2年理系 教諭 〇〇〇〇

＜研究主題＞ より効果的に探究的な学びを深める授業をめざして

(重点項目) ①対話による学びを深める授業 ②協働的な学びと振り返りの場の設定

◎授業者は、どの活動のどの段階を狙いにするか、下の表に丸をしてください(複数記載可)

◎実技科目も下表「学びの活動」欄のどれかに丸をしてください

◎下の表を参考にしつつ、作り変えて用いても構いません

◎加えて、授業者は、丸をした段階について、さらに具体的にどのような生徒の姿・発言・状態を狙いとするか、自由記述欄に書き込んでください

◎授業者によって書き込み済みの互見授業シートを参観者に配布して、具体的な狙いを共有しつつ、授業研究を行ってください

学びの活動	1 単純な活動をする	2 要点を取り出す(端的に表現する、確認する) 条件を満たす	3 比較検討する 表にする、まとめる 説明する(説得する)	4 変容に気づく 視点を変える 応用する
資料(図、表、グラフ、文章)との関係	・資料を使わない ・教員によってかみ砕かれた素材によって学ぶ	・資料を読み取る	・資料を作る ・複数の資料をまとめる	・学んだことを応用する
狙いとする生徒の具体的姿	1. 生成 AI や生徒との対話の中で、自分の知らない日本の偉人について必要な情報を引き出すことができる。			
文章を書く	・自由に感想文を書く	・課された条件を満たしながら文を書く ・資料の要約や現象の説明をする文を書く	・主張や要点を表にまとめ、分析・説明する文を書く	・まとめを受けて、さらに発展させた文を書く
狙いとする生徒の具体的姿	3. 発話内容を英語の文章としてまとめ、音読練習を通して正確にわかりやすい英語で発信できる。			
話し合う	・感想・意見を披露し合う ・問題のより良い解決について話し合う	・相手の自分の感想・意見の共通点と相違点を確認する ・複数の解決の違い(長短)を確認する	・共通点と相違点を表にまとめ、説明する(さらに話し合う) ・より良い解決を選び、その理由を説明する	・まとめを受けて、さらに発展させた意見を持つ ・まとめを受けて、発展的な問題を解決する
狙いとする生徒の具体的姿	2. 選んだ人物について、理由を添えながら、なぜ紙幣に肖像画を載せるべき人物であることを簡単に説明できる。			
読む	・ただ読む ・登場人物の行動や発言の真意を考える ・どの主張に賛成か、立場を決める ・法令、契約、定義を参照する	・表現の含意について考える ・段落分けの意味(文章の全体の構成)を考える ・主張ごとの特徴を確認する ・法令や契約、定義について、例を挙げながら考える	・全体の流れを構成図にまとめて理解する ・複数の主張について、表にまとめる ・複数の法令や契約、定義について比較検討する、表にまとめる	・まとめを受けて、当初の読解からの変化を説明する ・まとめを受けて、当初の立場からの変化を説明する ・まとめを受けて、法令、契約、定義について改善点を説明できる
狙いとする生徒の具体的姿				
問題を解く	・ただ解く	・条件を満たして解く	・出題意図について考える	・作問する 採点する
狙いとする生徒の具体的姿				

東桜学館互見授業シート

《実施日》令和 7年〇月〇日(〇) 〇時間目 《内 容》 中学英語 1年〇組 教諭 〇〇〇〇

《研究主題》 より効果的に探究的な学びを深める授業をめざして

(重点項目) ①対話による学びを深める授業 ②協働的な学びと振り返りの場の設定

◎授業者は、どの活動のどの段階を狙いにするか、下の表に丸をしてください(複数記載可)

◎実技科目も下表「学びの活動」欄のどれかに丸をしてください

◎下の表を参考にしつつ、作り変えて用いても構いません

◎加えて、授業者は、丸をした段階について、さらに具体的にどのような生徒の姿・発言・状態を狙いとするか、自由記述欄に書き込んでください

◎授業者によって書き込み済みの互見授業シートを参観者に配布して、具体的な狙いを共有しつつ、授業研究を行ってください

学びの活動	1 単純な活動をする	2 要点を取り出す(端的に表現する、確認する) 条件を満たす	3 比較検討する 表にする、まとめる 説明する(説得する)	4 変容にきづく 視点を変える 応用する
資料(図、表、グラフ、文章)との関係	・資料を使わない ・教員によってかみ砕かれた素材によって学ぶ	・資料を読み取る	・資料を作る ・複数の資料をまとめる	・学んだことを応用する
狙いとする生徒の具体的姿	すでに集めた情報をもとに表現しているか。くり返しを通して、情報の流れに沿った表現ができているか。			
文章を書く	・自由に感想文を書く	・課された条件を満たしながら文を書く・話す ・資料の要約と現象の説明をする文を書く	・主張や要点を表にまとめ、分析・説明する文を書く	・まとめを受けて、さらに発展させた文を書く
狙いとする生徒の具体的姿	クイズという条件・他者意識をもって話しているか。			
話し合う	・感想・意見を披露し合う ・問題のより良い解決法について話し合う	・相手の自分の感想・意見の共通点と相違点を確認する ・複数の解決法の違い(長短)を確認する	・共通点と相違点を表にまとめ、説明する(さらに話し合う) ・より良い解決法を選び、その理由を説明する	・まとめを受けて、さらに発展させた意見を持つ ・まとめを受けて、発展的な問題を解決する
狙いとする生徒の具体的姿				
読む	・ただ読む ・登場人物の行動や発言の真意を考える	・表現の含意について考える ・段落分けの意味(文章の全体の構成)を考える	・全体の流れを構成図にまとめて理解する ・複数の主張について、表にまとめる	・まとめを受けて、当初の判断からの変化を説明する ・まとめを受けて、当初の立場からの変化を説明する
	・どの主張に賛成か、立場を決める ・法令、契約、定義を参照する	・主張ごとの特徴を確認する ・法令や契約、定義について、例を挙げながら考える	・複数の法令や契約、定義について比較検討する、表にまとめる	・まとめを受けて、法令、契約、定義について改善点を説明できる
狙いとする生徒の具体的姿				
問題を解く	・ただ解く	・条件を満たして解く	・出題意図について考える	・作問する ・採点する
狙いとする生徒の具体的姿				

第1学年〇組 英語学習指導案

令和7年〇月〇日 (〇) 〇時間目
男子〇名 女子〇名 計〇名
指導者 〇〇〇〇

I 単元 Unit 6 Cheer Up, Tina (Here We Go! English Course 1)

II 目標

1 知識及び技能

三人称単数のsの特徴やきまりに関する事項を理解することができる。また、友人について、三人称単数sなどの簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話したり、相手からの質問に答えたりすることができる。

2 思考力、判断力、表現力等

紹介する友人の特徴や良さが伝わるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。また、相手からの質問に答えることができる。

3 学びに向かう力、人間性等

聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。

III 指導にあたって

1 教材観

本単元は、三人称単数のsの習得を通して、他者の日常的な習慣や特徴を表現できるようにすることをねらいとする。これまでの学習では、主に自分自身について表現することを中心に取組んできたが、本単元では視点を広げ、友人や家族といった身近な他者について発信する活動へと発展させる。

本単元で扱う三人称単数のsは、英語の動詞活用との初めての出会いであり、進行形や過去形など、今後学習する多様な時制・文法項目の基礎を形作る重要な要素である。小学校段階で音声として触れてはいるものの、文構造や用法を明示的に学ぶのは今回が初めてである。日本語には存在しない文法的特徴を持つため、先行研究においても、正しい理解と運用には時間を要することが指摘されており、形式を繰り返し学ぶ機会が必要である。その一方で、この文法項目を活用することで表現の幅が広がるため、内容面重視の言語活動をバランスよく取り入れることにより、英語力の向上につながる。

また、前単元で一通りの疑問詞を扱ったことにより、疑問文の基礎的な運用が可能になっている。そのため、本単元ではより幅広い質問・応答が成立しやすい状況にある。特に、QA活動は本校英語科で共有している中高6年間の指導ガイダンス「東桜スタンダード」において、中学1年生の重点項目とされている言語活動である。したがって、授業内で生徒同士が英語を用いたインタラクションを積極的に行うことが求められる。

さらに、学習教材については、検定教科書に加え副教材も活用しているため、それぞれの教材の特性を考慮しながら単元計画を立てることが重要である。

2 生徒観

本学級の生徒は英語学習に前向きであり、授業の雰囲気も明るく、協働的な学び合いが可能な集団である。実際に、ペアやグループでの活動では互いに支え合う姿勢が見られ、友人の意見や発表を尊重し合う文化が育っている。8月21日に実施した授業アンケートからも、英語学習や学級の学習環境に対して比較的肯定的な意識を持っていることが示されている(項目1・2)。また、同アンケートから、多くの生徒が成長マインドセットを有していることも明らかになった(項目3)。こうした協働性と学習意欲の高さを生かすことで、対話的で主体的な授業の展開が可能である。

一方で、学力の分布は二極化しており、基礎的な文法や語彙の理解に時間を要する生徒と、高い英語運用力を示す生徒が混在している。活動の中で全員が確実に成長し、達成感を得られるようにするためには、基礎的な学習内容の定着の機会を十分に確保しつつ、個々の力に応じた発展的な課

題を設定する必要がある。

さらに、本学級では家庭学習を含む学習習慣が十分に定着していない傾向が見られる。アンケートによると、継続的に家庭学習を行っていると感じた生徒は全体の約60%にとどまり、残りの生徒は継続的・計画的な学習に課題を抱えていることが分かる(項目4)。また、学習方法についても、約3割の生徒が「どのように学習すべきか」について十分な理解を持っていない(項目5)。多くの生徒が英語学習を始めたばかりである点を考慮すると、この初期指導の段階で、*自己調整しながら自律的に学びに向かうことのできる学習者を育成することが重要である。

【授業アンケートより(32名回答/8月21日実施)】

項目1: あなたのクラスは、協力し合ったりお互いに学び合ったりするのに適した環境ですか。

当てはまらない: 0人 やや当てはまらない: 2人 やや当てはまる: 9人 当てはまる: 21人

項目2: あなたは英語が好きですか。

当てはまらない: 1人 やや当てはまらない: 1人 どちらでもない: 7人

やや当てはまる: 18人 当てはまる: 5人

項目3: 努力を続ければ、自分の英語力は必ず成長すると思いますか。

当てはまらない: 0人 やや当てはまらない: 3人 やや当てはまる: 10人 当てはまる: 19人

項目4: 困難に直面してもあきらめず、継続して学習していますか。

当てはまらない: 1人 やや当てはまらない: 11人 やや当てはまる: 15人 当てはまる: 5人

項目5: 目標達成に必要な学習方法を知っていますか。

当てはまらない: 3人 やや当てはまらない: 7人 やや当てはまる: 20人 当てはまる: 2人

3 指導観

以上のような単元の特徴及び生徒の実態を踏まえ、以下の三点(単元計画・一時間の授業・自己調整能力)に留意して指導を行う。

3.1 単元計画

本単元では、第二言語習得理論に基づく言語習得のプロセスを踏まえ、単元を「インプット・活用・アウトプット」の3つの段階に分けて一貫した指導を行う。具体的には、第1段階で文法項目や教科書の内容を理解し、次の段階で様々な言語活動を通して内在化・統合を図る。それらを踏まえて、最後の段階ではリテリングやパフォーマンステストなどでアウトプットする。使用教材については、検定教科書である Here We Go! を中心とし、*5ラウンドシステムの考え方にに基づき、繰り返し触れることによって学習内容を定着させる。その上で、副教材である New Treasure を文法指導や読解指導に活用し、教科書のラウンドシステムを補強する(詳細は4・5ページの単元計画参照)。

学習課題においては、英語の正確さに偏らず、内容面重視の活動もバランスよく配置する。単元末の課題である友人紹介では、学習者間のインタラクションを活性化させるため、*タスク基盤型言語教育(Task-Based Language Teaching: TBLT)の考え方を取り入れる。例えば、学習課題を単なる紹介にとどめず、情報ギャップを生み出すためにクイズ形式とし、聞き手が主体的に関わる状況を設定する。これにより、発話を単なる暗唱にとどめず、必要感のあるコミュニケーション活動へと発展させる。さらに、クイズ形式であっても、情報の流れ(主題→具体例・理由→まとめ)を意識させることで、聞き手の理解を促し、説得力を高める力を育成する。これは今後のスピーチ、プレゼンテーション、ディベート等に必要不可欠な力であり、中高連携の視点からも重要である。

加えて、前単元とのつながりを生かし、QA活動を多用する。友人紹介のクイズにおいても、発表後には聞き手から質問を受ける時間を設け、スピーチを一方向的な活動から双方向的なやり取りへと発展させる。これは、生徒の高い協調性という学級の特長にも適合しており、有効な指導手段である。

3. 2 一時間の授業

本単元で扱う文法項目の特性や学級内の学力の実態を踏まえ、日々の授業においては帯活動を充実させる。まず、英語力の基盤となる語彙力および文法運用力を養成するために、毎時間、新出単語の学習や基本文の練習に取り組ませる。また、内容面重視の言語活動を定期的に取り入れるため、もの当てクイズを帯活動として継続的に行う。

さらに、学力差に対応するため、丁寧な足場かけを行う。特にアウトプット活動では、一度に高い到達度を求めるのではなく、段階的なスモールステップを設定し、生徒が着実に目標を達成できるように指導する。繰り返しの学習を通して内容理解を深めることを重視する一方で、高い理解を示す生徒には追加課題を課すなどして個別最適な学びを実現する。

3. 3 自己調整学習能力

ここでは、*自己調整学習が成立するために必要な要素を「メタ認知」「動機付け」「学習方略」とし、それらを育成するために以下の手立てを講じる。

①メタ認知

- ・授業内での活動後や授業の振り返りなど、自己評価及び相互評価を取り入れる。
- ・「①学習の目標と現在地の差は何か」「②差を埋めるために何をすべきか」について教師が適切にフィードバックを行う。

②動機付け

- ・学習課題やルーブリック、モデルなどを共有する。
- ・肯定的で建設的なフィードバックを与える。
- ・努力すれば達成可能な、適切な認知的負荷を伴う課題を設定する。

③学習方略

- ・学習の「目的」や「方法」を明示し、実際に体験させ、成功体験を得られるようにする
- ・小テスト等を通して自らの学習状況を定期的に把握させ、学習を評価・修正できるようにする。
- ・家庭学習の充実を図るため、学習計画表を用いて目標や学習計画のモデルを提示したり、学習の進捗を可視化させたりする。

*自己調整学習能力：学習や生活の中で自分の行動や考え方を自分で調整する力のこと。自己調整するために必要な3つの要素として、「動機づけ」「学習方略」「メタ認知」がある。(Zimmerman, 1989)

*5ラウンドシステム：教科書のストーリーを、目的や負荷を変えながら、5回繰り返して学ぶ指導法(『5ラウンドシステムの英語授業』(金谷他、2017)より)。本来は1年間をかけて教科書に触れるように計画をするが、本単元では定期考査間を一つの区切りとし、その中で繰り返し学習するように単元を組む。

*タスク基盤型言語教育(TBLT)：意味のある課題(タスク)を通して言語を「使いながら学ぶ」教授法。(Ellis, 2009)

IV 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 三人称単数 s に関する事項を理解している。 〈技能〉 友達について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数 s などの簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話したり、相手からの質問に答えたりしている。	紹介する友人の特徴や良さが伝わるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数 s などの簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話したり、相手からの質問に答えたり。	紹介する友人の特徴や良さが伝わるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、三人称単数 S などの簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話したり、相手からの質問に答えたりしようとしている。